団塊ジュニアの独り言

札幌市医師会
ていね駅前泌尿器科　砂押研一

この度は新年に年男となる会員の中で無作為に…ということで私に原稿依頼が来ました。当たりと言っていいのか外れと言っていいのかは分かりませんが、年男ということで思い浮かんだことを書かせていただきます。

私は昭和47年生まれ、いわゆる団塊ジュニアと呼ばれる世代です。世代人口は団塊の世代に次いで多く、１年間で生まれた子供が200万人以上いました。ここ最近は１年間で100万人以下ですから、いかに当時が多かったか、というか現在がいかに少子化であるのか身につまされる数字であります。しかも団塊の世代より大学受験率が高かったので、受験戦争が最も厳しかった世代とも言われています。さらにちょうど卒業する前にバブルが崩壊し、就職にも恵まれない氷河期世代=ロスジェネ世代とも一致します。

何だか書いていて腹が立ってきました。

思えば平成10年に医師となって以降、いわゆる「景気の良い話」というのは実体験ではなく全て人づてに聞いてきました。そして景気の良い話を経験しないまま「小泉構造改革」「リーマンショック」など、書くだけで不景気そのもののような事柄を目の当たりにします。そういえば、私の医師免許証の署名は、当時の厚生大臣であった小泉純一郎です。すいません、全く関係ない話でした。

さて、自分たちの世代についてまとめようとすると、あまりに不景気な、可哀相な世代ということになってしまいそうです。最近の経済の観点からまとめるとそうなのかもしれません。しかし、本当に我々は可哀相な世代なのでしょうか？　こうなると反論してみたくなります。

例えば同じ世代の有名人を挙げてみると、思いつくだけでも木村拓哉、中居正広、ホリエモン、高橋尚子、貴乃花、マツコデラックス、松井秀喜、イチロー…それこそ多士済済で、可哀相な感じは一切しないと思います。

そもそも我々は、日本が豊かになり出してから生まれた世代です。物心ついた時には普通にカラーテレビがあって、コンビニで買い物ができました（ただし24時間ではなくそれこそ７-11時でしたが）。そう考えると、人生トータルでは経済的には各世代あまり変わりがないのではないか？という気もしてきます。

我々世代が持つ長所を考えた時、私がひそかに一番大きい長所ではないかと考えているのは、考え方に偏りが少なく、バランスのとれた人間が多いということです。

我々は物心つく頃、実際に体験した人から戦争の体験を聞く機会がありました。ひょっとすると、我々は戦争を経験した方々が元気なうちに、その方々から直接話を聞けた最後の世代なのではないかと思います。そして社会人になってからは、学生運動を経験した方から仕事の指導を受けたりします。それこそ激動の人生を歩んだ世代から話を聞きつつ、しかし一方でパソコンや携帯電話、インターネットの普及に対応していったのが我々世代なのです。そのためなのか周りの同世代を見渡してみると、一昔前の考え方にも一定の理解を持ちながらしかし固執することなく、一方ではインターネットの便利さを享受しつつも過信することはない、というような人間が多い気がします。

現在の日本にはさまざまな問題が山積みで、今後先行き不透明といった感じがあります。しかしそんな状況も、これからを担っていく我々世代のバランス感覚で乗り切っていけるのでは？これから再び日本が自信を取り戻せる時代が来るのでは？などと期待をしております。そうでないと我々は大人になって以降、ずっと冷や飯食いで終わってしまいます！

今回は思いつくまま、都合の良い勝手なことをつらつらと書いてしまいました。団塊世代、バブル世代、ゆとり世代などその他の世代の方々も言いたいことは色々あるかもしれません。ですから今日書いたことはあくまで「独り言」としてとらえていただければ幸いです。